

静岡県教育委員会

議事録

令和 7 年度 第 11 回定例
9 月 3 日 (水)

静岡県教育委員会教育長 池上重弘は、

令和7年9月3日に教育委員会第11回定例会を招集した。

1 開催日時 令和7年9月3日（水） 開会 13時30分
閉会 13時55分

2 会場 教育委員会議室

3 出席者	教 育 長	池 上 重 弘
	委 員 伊 東 幸 宏	
	委 員 小野澤 宏 時	
	委 員 天 城 真 美	
	委 員 飯 村 幸 生	
	委 員 渡 村 マ イ	
	事務局（説明員）	前 澤 綾 子 教育部長
		小 野 田 秀 生 教育監
		山 下 英 作 理事（統括・新図書館担当）
		中 山 雄 二 参事（学校教育担当）
		金 嶋 克 年 参事兼新図書館整備課長
		高 林 伸 成 教育総務課長
		白 土 達 夫 教育政策課長
		櫻 井 澄 人 教育DX推進課長
		上 原 啓 克 財務課長
		鈴 木 憲 昭 教育厚生課長
		横 田 恭 子 教育施設課長
		秋 野 薫 義務教育課長
		中 村 大 輔 高校教育課長
		山 村 仁 特別支援教育課長
		夏 目 伸 二 健康体育課長
		小 竹 啓 功 社会教育課長
		植 松 博 静東教育事務所長
		菅 沼 晃 静西教育事務所長
		持 山 育 央 総合教育センター所長
		高 橋 健 二 中央図書館長

4 その他

(1) 報告事項は了承された。

【開会】

教育長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。
今回の議事録の署名は、私のほか、天城委員にお願いする。

教育長： それでは審議を始める。

報告事項1 静岡県校長育成指標・静岡県教員育成指標の改訂

教 育 長： 報告事項1「静岡県校長育成指標・静岡県教員育成指標の改訂」について中山人権・教員育成室長より説明願う。

人権・教員育成室長： <報告事項について説明>

教 育 長： 質疑等はあるか。

伊 東 委 員： 説明のあった部分に関しては妥当だと思う。別の箇所で質問であるが、校長に求められる資質能力のうち、必要な諸資源の把握とその活用という項目に、括弧書きでファシリテーション能力と書かれている。このファシリテーションの具体例行動例について、私が日常的に使っている意味と一致しないが、何か理由があつて括弧書きにしているのか。

人権・教員育成室長： 必要な諸資源の把握とその活用におけるファシリテーションについては、例えばコミュニティスクール等で学校以外の地域の方、他機関や家庭など、学校運営に関する連携調整していく場面が多いので、そういった際の調整等の意味を含めて表現している。

伊 東 委 員： 必要な諸資源の把握とその活用というのがファシリテーション能力と言っているようで少し気味が悪いのではないか。

人権・教員育成室長： 承知した。文言について検討していく。

教 育 長： 今の伊東委員の御指摘は、必要な諸資源の把握とその活用という項目の名称に対して、右側の具体的行動例の記載は一致している。ただそれを括弧書きでファシリテーション能力という言葉でまとめることに違和感がある、ということでしょうか。

伊 東 委 員： そうである。

教 育 長： 対して中山室長の説明は、様々な資源を活用していく上で、いろいろ人の話を聞いて、一つの大きな考え方の方向性を持っていく上でファシリテーション能力は必要になっていく、ということである。書き方として、必要な諸資源の把握とその活用が、ファシリテーション能力のように見えない書き方をしてみてはどうかという御指摘であった。以上を踏まえ、部会や教員育成委員会等で検討していく。

今入っている文言等も暫定的なものである。また、文言そのものが入っていない枠もあるので、今後、後半の議論の中で入ったものを踏まえ、2月の定例会で検討や確認をお願いする。他に質疑等はあるか。

渡 村 委 員： 計画自体や細かい部分の意見はないが、個人的な感想として、校長がこれだけのことを求められており、このミッションを自分に課されたら何年位で達成できるだろうかと思いながら見ていた。このビジョンを実現し、管理運営責任を持って人材を育成するのは、企業の社長のレベルではないかと思う。校長の力量や采配は大きいが、背負うものもかなり大きいため、これを通常のミッションと考えると、任期が2、3年というのは、このボリュームに対してあまり現実的ではないと感じた。今回の議題でないことは承知しているが、校長の業務のボリューム感と今の体制を考えると、無理がある、理想像的ではないかと受けとめた。

教 育 長： 校長の研修や、校長の前の管理職段階での研修等との兼ね合いも、今

の御意見から考えていく必要があるのではないか。

教 育 監： 校長になってすぐにこのような資質能力を全て兼ね備えるのは厳しいと思う。教頭や副校長など、校長になる段階を経る中で、資質能力をつけていくことも必要である。また、校長になってからの研修や経験の中で、さらに高めていくための支援を我々はしていかなければならないと思う。

教 育 長： 校長になってこれを初めて目にするということではなく、教頭、副校长の段階で、校長の指標としてこのようなものがあることを意識の中ににおいて、日頃の教育実践や研修に臨むことが、言わば足腰を鍛える、校長職として走り出す前段階で大事なことだと感じている。

渡 村 委 員： 人材育成やビジョン実現、管理運営を考えると、5年若しくは10年位で取りかかるものだと思うが、1点に絞って、任期の中でやり遂げるというのは、一つの学校の中で教員との信頼関係などの関係性を作り、子供たちと接していくことをじっくり運営する側として考えた場合に、最低6年から10年位は必要なミッションだと感じている。私が言いたいことは、任期が短すぎるのではないかということである。

教 育 長： 承知した。他に質疑等あるか。

飯 村 委 員： 1ページの「人権に関する言及」の下の欄であるが、「対外的な対応力などを必要な資質と捉えるべきだ」という意見に対して、「学校経営のビジョンを実現する力で示している」とあるのは話がずれているのではないか。原案によると、「保護者、地域等に共有される学校経営のビジョンを示し」とあり、対応力があるといった回答とされているが、入れるのであれば「学校経営のビジョンを明瞭に示し」などではないか。プレゼン能力は非常に意味があり、プレゼンが下手な人と上手い人では相手の理解が倍以上違うと言われている。校長のプレゼン能力を含めたスキルの質を上げていこうという意図だと思うが、これはこのままでよいのか。

人権・教員育成室長： 御指摘のあったプレゼン能力といった側面で、対外的な対応力であると捉えておらず、今ある指標の下線を引いた部分が関係するものと捉えていた。プレゼン能力が大切であることも踏まえ、再度検討していく。

飯 村 委 員： アイデアとすると、単語を足すだけになるが、「学校経営のビジョンを明瞭に示し」など、相手にわかるように明確に示すと良い。プレゼンテーションが非常に長いと、理解できないことが多いので、1回でシンプルにはっきりと示せるかどうかは、プレゼン能力だけでなく、校長の経営のビジョンに対する理解度や要約能力も入っているので、案外難しいが、そのスキルを上げていくことも意味として包含した方が良いので検討願いたい。

人権・教員育成室長： 承知した。

教 育 長： 今のポイントは、これからの中学校を考える上でとても重要である。先日、全国の教育長の会合で大阪府の教育長が興味深い話をされた。大阪府は御承知のとおり、私学の授業料無償化が先行して行われている。い

わゆる伝統校も含めて、定員割れが至る所で起こり、非常に危機的な状況だと認識されていた。大阪府の教育長は、高校の教員経験者でもなく、行政職経験者でもなく、一般社団法人の代表理事で、学校の特色を中学生や保護者、あるいは先生方に知っていただくためのノウハウを、学校側がこれまで持ってこなかったのではないかという認識を持っていた。マーケティングとブランディングとプロモーション、これらの能力を校長にしっかりと持つてもらうために、教育委員会としていろいろと手を打っているという話をされており、共感を持って聞いていた。

また、複数の地域協議会の中で、「各学校がいろいろやっていると聞くが、その具体的な内容が伝わってこない」という話を、保護者の立場で参加される方からよく聞く。そうすると、具体的にはプレゼンについて、内部的に学校の先生方や児童生徒向けだけではなく、地域社会であったり、中学生、保護者、中学校の先生方に対しても、的確に簡潔に的を射た、きちんとしたプレゼンを効率良く行う力は、これからの中学校に確かに必要である。そのことを今思い出しながら、飯村委員の御指摘を聞いていたところである。非常に重要な御指摘をいただいたので、後半の議論の中で検討していきたい。他に質疑等あるか。

- 全 委 員：（特になし）
教 育 長：報告事項1を了承する。
教 育 長：以上で、本定例会の議事は全て終了した。

これをもって、令和7年度第11回教育委員会定例会を閉会とする。